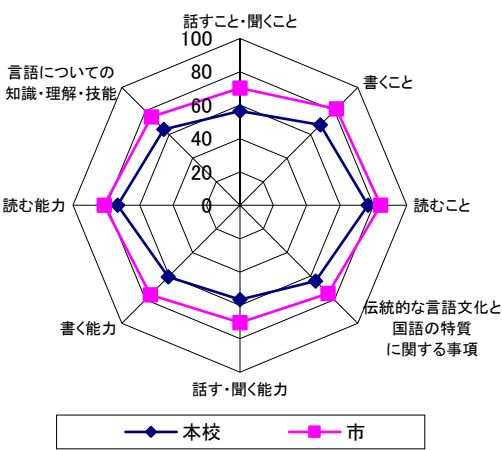


宇都宮市立富屋小学校 第6学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	話すこと・聞くこと	56.5	70.3	68.2
	書くこと	68.0	81.7	80.6
	読むこと	76.7	84.3	84.3
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	64.1	74.7	72.7
観点別	話す・聞く能力	56.5	70.3	68.2
	書く能力	60.6	76.0	74.1
	読む能力	73.3	81.3	81.1
	言語についての知識・理解・技能	64.4	74.9	73.1

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	領域の平均正答率は、市の平均を下回った。 ○「話し手の意図を考えながら、話合いの内容を聞くこと」については、市の平均をやや下回ったが、概ね正答率が高かった。 ●「司会者の役割を理解して、計画的に話し合おうとすること」については、市の平均を大きく下回り、正答率も低かった。	・話合い活動の中で、意見を聞き取ることはできているが、聞き取った内容を受けて、自分で考え、適切に話す力は不十分である。意見を聞くだけでなく、その意見を受けて自分の意見を述べたり、司会者として話合いを進めていったりする活動を取り入れたい。
書くこと	領域の平均正答率は、市の平均を下回った。 ●「指定された長さで文章を書くこと」については、市の平均を大きく下回った。	・与えられた情報を読み取り、グラフから読み取った事実を書くことは概ねできたが、今後は、限られた時間の中である程度長い文章を根気強く書くような活動や支援が必要である。。
読むこと	領域の平均正答率は市の平均をやや下回った。 ○物語の「登場人物の心情を読み取ること」について、市の平均と同じだった。 ●物語の「場面の描写と登場人物の心情を読み取ること」について、市の平均を下回った。	・授業の中で場面描写や登場人物の心情を読み取るような内容を重視してきたが、今後も描写から心情、心情にともなう描写などについて考えさせる活動を取り組んでいく。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	領域の平均正答率は市の平均を下回った。 ○「漢字を読む」「漢字を書く」については、市の平均を半数が下回り、半数が同じだった。 ●「同音異字」や「国語辞典の使い方」について、市の平均を下回った。	・漢字練習を重ねて、漢字を読むこと・書くことにおいて力が定着しつつある状況にあるが、5年生で学習した漢字を忘れている様子もうかがえる。今後も継続して取り組んでいきたい。 ・普段の授業の様子からも語彙力に弱さがあるように見受けられる。辞書を引く経験を積ませたい。